

「浦安するファッション」



西尾美也



L PACK.

ドキュメント



URAYASU
ART PROJECT ?
〈浦安藝大〉

西尾美也 [にしお・よしなり]

美術家、ファッションデザイナー。東京藝術大学美術学部
先端芸術表現科准教授。装いの行為とコミュニケーション
の関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。ファッ
ションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手がける。

L PACK. [エルパック]

小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。アート、デザイン、
建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道
具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた空間を提案して
いる。「浦安するファッション」では、展示什器の制作を担当。

「浦安するファッション」と 本ドキュメントについて

2023年の秋、千葉県浦安市のまちなかにある理髪店・美容院5店舗を舞台に、西尾美也+L PACK.「浦安するファッション」が展開されました。

これは、2023年4月に始まった浦安アートプロジェクト「浦安藝大」で、美術家で東京藝術大学准教授の西尾美也と、『拡張するファッション』（2011）の著者で編集者の林央子が市民参加型のアートプロジェクトとして立ち上げた「拡張するファッション演習」の一つとして実施されました。

浦安市が抱える「高齢化」と「孤立」等をテーマに、ファッションの対話的・協働的な側面に光をあてながら3年に渡って取り組む「拡張するファッション演習」の初年度に実施された本プロジェクトでは、高齢者の方の外出の機会にもなる理髪店や美容院が密集するエリアがあることに注目。浦安市民から古着や空間を居心地よくするアイテムを募集し、浦安のまちに根差した5つの理髪店・美容院に思い出のエピソードとともに展示しました。来場者は髪を整える以外の目的で理髪店・美容院を巡るという非日常の体験をするだけでなく、展示されたアイテムやエピソード、またその空間を通して浦安の日常に出会う機会となりました。

本ドキュメントでは、この取り組みを、展示物やエピソードのほか、理髪店・美容院の店主や参加者たちの声も交えて紹介します。浦安市での新しい取り組みや広くファッションがもたらす可能性を感じていただけたら幸いです。

西尾美也 + L PACK.



「浦安するファッション」

会期：2023年10月20日(金)～11月5日(日)

会場：千葉県浦安市入船エリアの
理髪店・美容院5店舗

- ① CUT CLUB Top one
- ② accorto
- ③ ばんば美容
- ④ UPPER CUT
- ⑤ SILVIA



浦安アートプロジェクト「浦安藝大」

主催：浦安市、東京藝術大学



※ このプロジェクトは、浦安アートプロジェクト「浦安藝大」の
西尾美也+林央子「拡張するファッション演習」の一環
として開催されました。

制作スケジュール

2023年

- 4月18日 浦安市内リサーチ [西尾・事務局]
- 5月12日 ミーティング [西尾・事務局]
- 6月29日 浦安市入船エリアへ1回目のリサーチへ
[西尾・事務局]
- 8月13日 展示什器に関するオンラインミーティング
[西尾・L PACK.(中嶋)]
- 8月29日 浦安市入船エリアへ2回目のリサーチへ
[西尾・米津・事務局]
- 8月31日 企画書作成 [米津]
- 9月6日 市役所でミーティング
[西尾・米津・浦安市担当者・事務局]
- 浦安市入船エリアへ3回目のリサーチへ
→展示会場となる理髪店・美容院5店舗の確定、
広報用画像撮影、アイテムおよびエピソード
募集に関する打ち合わせ
[西尾・米津・事務局]
- 9月9日 募集チラシデザインに関する
オンラインミーティング [千葉・米津]
- 9月21日 アイテムおよびエピソード募集チラシ完成(納品)
配布開始、会場5店舗へ募集チラシ持参・
地図作成用情報現場確認 [米津]
- 9月29日 アイテム回収に向けたオンラインミーティング
[米津・事務局]
- 10月1日 老人クラブ会館 入船東寿会・入船北の会にて
回収受付実施 [米津・事務局]
- 5店舗へ展示についてご相談 [米津]
- 10月3日 アイテム募集・ウェブサイト・L PACK.との
下見等展示準備、設営調整についての
オンラインミーティング [西尾・米津・事務局]
- 10月5日 理髪店・美容院5店舗の会場下見へ
[L PACK.(中嶋)・米津]
- 10月10日 アイテムおよびエピソード募集〆切日
→引き続き募集を行うことに
- 10月13日 浦安市老人福祉センター(Uセンター)でアイテム
およびエピソード回収 [浦安市担当者・事務局]
- 10月14日 設置に向けたオンラインミーティング
[西尾・L PACK.(中嶋)・米津]
- 10月15日 展示什器完成 [L PACK.(中嶋)・小田桐]
- 10月16日 浦安市集合事務所にて展示準備作業
ばんば美容 展示設営、広報用画像撮影
[西尾・L PACK.(中嶋)・米津]
- 10月17日 会期中配布地図完成(納品)
- 10月18日 SILVIA、accorto、CUT CLUB Top one
展示設営 [L PACK.(中嶋)・米津]
- 10月19日 UPPER CUT展示設営・5店舗撮影 [米津]
- 10月20日 「浦安するファッション」初日、
5店舗へ様子伺い [米津]
- 10月27日 記録撮影 [横山・米津]
- 11月3日 5店舗へ様子伺い・撤収の段取り確認 [米津]
- 11月5日 「浦安するファッション」最終日
- 11月8日 撤収 [L PACK.(中嶋)・小田桐)・米津]
- 以降 アイテム返却 [米津・事務局]

[西尾]… 西尾美也 [米津]… 米津いつか
[事務局]… 浦安藝大事務局 [千葉]… 千葉美穂
[L PACK.(中嶋)・小田桐)]… L PACK.(中嶋哲矢)・小田桐 奨)
[横山]… 横山 渚

展示アイテムとエピソードの募集

会期中に理髪店・美容院に展示するアイテムとエピソードは、以下の内容で、浦安市民の方に募集を呼びかけました。

<募集するもの>

服または広義のファッションとして身の回りを彩るアイテムとそのエピソード

(例:子どもが小さいときに着ていた服/引き継ぐ人のいない着物/住空間を居心地良くする絵画や置物など)

<応募方法>

チラシの裏面に必要事項を記入し、服などのアイテムと一緒に以下いずれかの方法でお届けください。

①郵送

宛先:〒279-8501 千葉県浦安市猫実一丁目1番1号
浦安市役所7階 生涯学習課内 浦安藝大事務局
2023年10月10日(火)必着 ※送料はご負担ください

②浦安市 老人クラブ会館

入船東寿会・入船北の会(浦安市入船6-5-2)での受付

本チラシの裏面に必要事項を記入し、服などのアイテムと一緒に以下いずれかの方法でお届けください。
2023年10月1日(日)13:00-16:00の間に直接お持ちください

<注意事項>

- ※ 募集対象は浦安市在住者の方に限ります
- ※ お一人3点まで受け付けます
- ※ サイズ・重量は、一人で持てる程度のものでお願いします
- ※ 服などのアイテムのみでは受付できません
必ずエピソードと合わせてご応募ください
- ※ どの店舗に展示するかは主催者側で決定します
- ※ 状態や内容、全体の応募点数によっては
展示できない場合があります
- ※ 希望される場合、服などのアイテムは展示終了後に返却します
(送料は主催者側で負担します)
- ※ 返却を希望されなかったアイテムの用途については、
事務局および作家に一任いただきます
後日返却を希望されても応じかねます
- ※ 服などのアイテムの取り扱いや保管・管理については、
最善を尽くしますが、不慮の事故・災害等による
損害・紛失等については責任を負いかねます

<必要事項>

- ・アイテム名(※主催者判別のため/例:「黄色いパーカー」「黒い着物」など)
- ・エピソード(~200字程度)
- ・アイテムの返却を希望するかしないか
- ・氏名 ・電話番号 ・住所 ・メールアドレス

浦安市民の古着や思い出募集します!

募集するもの: 服または広義のファッションとして身の回りを彩るアイテムとそのエピソード

応募方法: 本チラシの裏面に必要事項を記入し、服などのアイテムと一緒に以下いずれかの方法でお届けください。

①郵送: 2023年10月10日(火)必着 ※送料はご負担ください

②浦安市 老人クラブ会館: 2023年10月1日(日)13:00-16:00の間に直接お持ちください

注意事項: 募集対象は浦安市在住者の方に限ります。お一人3点まで受け付けます。サイズ・重量は、一人で持てる程度のものでお願いします。服などのアイテムのみでは受付できません。必ずエピソードと合わせてご応募ください。どの店舗に展示するかは主催者側で決定します。状態や内容、全体の応募点数によっては展示できない場合があります。希望される場合、服などのアイテムは展示終了後に返却します(送料は主催者側で負担します)。返却を希望されなかったアイテムの用途については、事務局および作家に一任いただきます。後日返却を希望されても応じかねます。服などのアイテムの取り扱いや保管・管理については、最善を尽くしますが、不慮の事故・災害等による損害・紛失等については責任を負いかねます。

必要事項: アイテム名(※主催者判別のため/例:「黄色いパーカー」「黒い着物」など)、エピソード(~200字程度)、アイテムの返却を希望するかしないか、氏名・電話番号・住所・メールアドレス

お問い合わせ: 0476-22-0100

募集期間: 2023年10月1日(日)13:00-16:00

募集場所: 浦安市入船6-5-2 入船東寿会・入船北の会

募集アイテム: 古着、思い出、ファッションアイテム

募集エピソード: アイテムに関する思い出、エピソード

募集対象: 浦安市在住者

募集数量: 1人3点まで

募集サイズ・重量: 一人で持てる程度

募集送料: 主催者負担

募集返却: 希望される場合、展示終了後に返却(送料は主催者負担)

募集返却: 希望されなかったアイテムの用途は、事務局および作家に一任

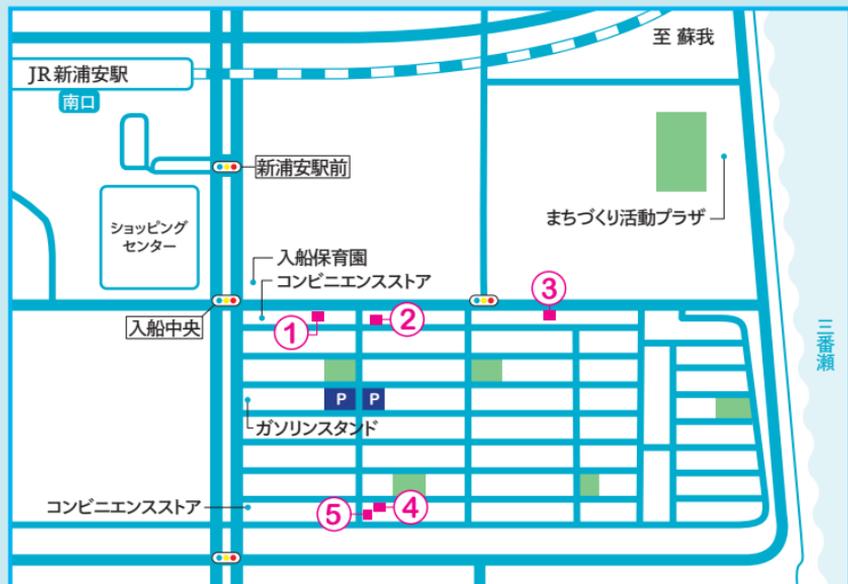
募集返却: 後日返却を希望されても応じかね

募集返却: 服などのアイテムの取り扱いや保管・管理については、最善を尽くすが、不慮の事故・災害等による損害・紛失等については責任を負いかね

まちなか展示「浦安するファッション」

会期:2023年10月20日(金)~11月5日(日)

「浦安するファッション」の展示は、浦安藝大の「まちなか展示」期間に、浦安市入船エリアにある下記の理髪店・美容院5店舗で開催されました。



① CUT CLUB Top one

② accorto

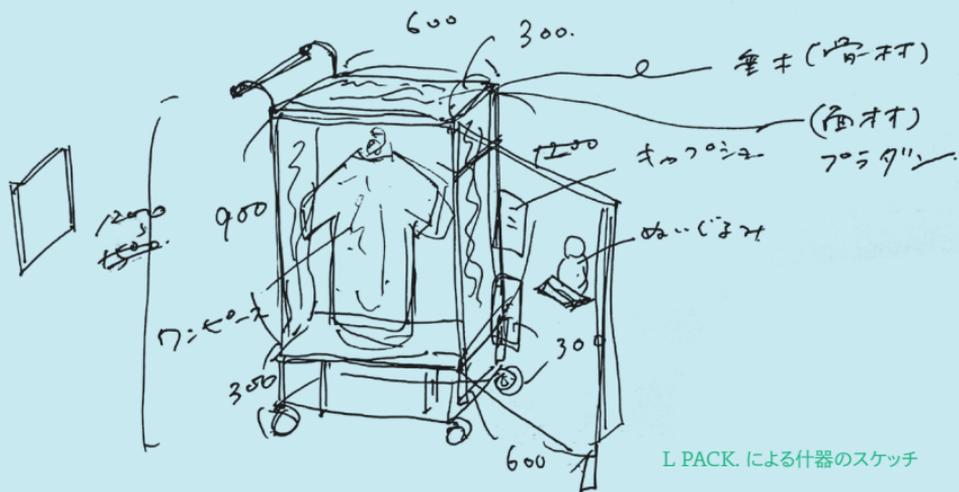
③ ばんば美容

④ UPPER CUT

⑤ SILVIA

展示什器について

各会場店舗での展示には、アーティスト・ユニットのL PACK.が考案・制作した、クローゼットとしてのキャリーケース型をイメージした什器が使われました。プライベートな記憶を垣間見る標本箱のような雰囲気もあり、箱状にすることで展示作品としての見やすさも備わっていました。内装が異なる各店舗のイメージを損なうことなくそれぞれの空間に溶け込むように、日常でよく目にする簡易的な木材やポリカーボネートを使用し、絶妙な違和感や軽やかさを出していました。



L PACK. による什器のスケッチ

4

UPPER CUT

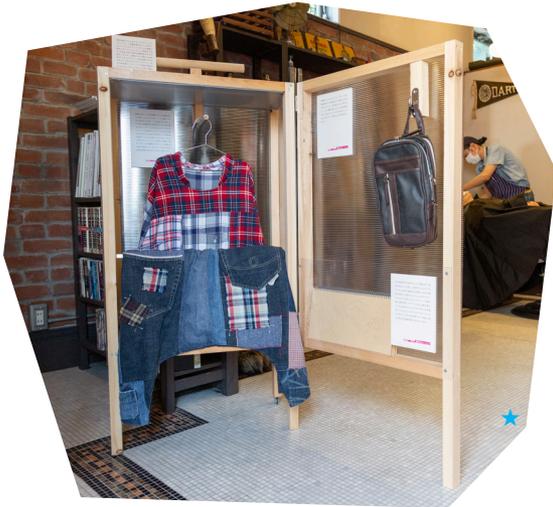
住所：浦安市入船4-10-1 Y-2 1F

時間：平日10:00-20:00／土日祝 9:00-19:00

休み：火曜日、第3水曜日

陶器

浦安友達のひとみさんが、このプレートにドライフルーツ羊羹を乗せてインスタグラムにアップ。そのプレートがとても素敵で羨ましがっていたら、プレート情報より先に、お友達であり作者の高橋亜希子さんを紹介してくれて、亜希子さんは後に私が始めた「うららかマルシェ」の出店者さんにまでなってくれたのです。このプレートを手取る度に、スイーツで大胆で芸術的な、ひとみんとあっちゃんに思いを馳せています。ありがとうございます。



洋服

家族が出してくる不要になった衣類を見て、着たいけどサイズが……ここ傷んでるけど他はキレイだ……じゃあバラバラにして、使える部分だけで私のサイズに作り替えればいいや！で、生まれたのがこの「おばシャツ」と「おばサルエルパンツ」です。同時に私の体にだけ合わせた形で、この先体型が変わっても、おばあちゃんになっても作り替えなくていいように考えた型紙も1枚ずつ作り、その型紙だけで作った衣類を私は365日着用しています。というわけで私の衣類は家族のお古からできています。

バッグ

年数経っている。Uセンターに行くときに筆記用具やメモ用紙などの小物を入れるのに使っていた。1～2年使用。カラオケをしに行くときに便利で買った。コロナ前は毎日のようにUセンターでカラオケをやっていた。大きいバックを買ったので使わなくなった。



スケッチブック

夫が昼夜問わずあまりによく寝るので、新婚当時はとても悲しい気持ちになったものでした。ある日、相変わらず寝ている夫の寝姿を恨めしく眺めていたら、なぜかスケッチすることを思い立ち、スケジュール帳の裏に鉛筆で描くとプツと笑える絵が描けました。処女作はとても下手ですが、回を重ねるごとにちょっとずつ上手くなっているのが見どころです。我が家ではこの絵を、親しみを込め「寝姿百景」と呼んでいます。



店主・榎間丈晴さんに
聞きました



Q1. プロジェクトの話を聞いたときにどう思いましたか？

これまで浦安市のイベントに参加したことがなかったので、何か面白いことになりそうだなと。

Q2. なぜ、このプロジェクトに参加することを決めたのですか？

理髪店・美容院は通常、馴染みの店にしか出入りしないものですが、それ以外の目的でふらっと違う店を覗くことができる良い機会になると思ったので。

Q3. 訪れた人の反応はどうでしたか？

初めて店の扉を開けるのは勇気がいるのでしょうか。キョロキョロしながら何度も行ったり来たり。目が合うと照れながら入店。展示品をゆっくり鑑賞後、店内の撮影もしていただき、また来ますと笑顔で帰られたり。

Q4. 会期中、印象に残ったことはありますか？

展示品の出品者の方がいらして下さって、ご自分のスケッチをにこやかに眺めている姿が微笑ましかったです。

Q5. 参加しての感想を教えてください

ヘアカットをしに来店するお客さんだけとの交流しかなかったので、それ以外の方とのつながりができて良かった。

2 accorto

住所：浦安市入船4-17-26 1F

時間：10:00-18:00

休み：月曜日、火曜日

23年前、スタイリストの試験に合格した時にカリスマの先輩が、使用していたブランドのはさみ。高価すぎて、自分では手が出せず……亡きおばあさんから、記念にと、一生物を頂きました。これで、賞をとり。これで、トップスタイリスト～オーナーに。このはさみ達、最初より短くなってます。研ぎに出し、命を吹き返し、また仕事をさせてもらってる、はさみ。

はさみ



ズボン

1972年から1973年にかけて、スコットランドのエディンバラ近郊に留学していました。休みの時々に、グラスゴーから深夜バスでロンドンに遊びに行きました。カーナビー・ストリートとか、秘密のディスコティックで、ブイブイ言わせていた時のズボンです。ズボンの異常な太さに、ご注目！！若者用なのに、ウール100%！！さすがイギリス製！！！！



傘

浦安密着のチューバー「とある男子学屋」の企画の中で、“浦安を盛り上げる”をテーマに話をしている際に、当時日傘を作っている思い付いたことを提案し、生まれたのがこの「浦安日傘」です。8面からできている日傘の8柄を市内のお店さん、会社さん、活動している団体さんの看板やロゴを柄にして布を作り日傘に仕立てる。参加数が増えれば、いろんな柄の日傘になる。街中で使ってもらえたら楽しいね、という思いで布のデザイン担当と日傘制作の2人で活動しています。



ジャケット

2000年代前半、新浦安のダイエー（現・イオン）の2階に“ラフセットバーグ”という素敵な洋服屋さん（セレクトショップ）があって、そこで購入しました。このジャケットは気に入って、仕事でもプライベートでも着倒しました。新浦安にもっと個人でやられている服屋さん、レストランが増えて欲しいなあ、とちょっと思ったりして。

Tシャツ

結婚を機に住み始めた新浦安。自分が普通んでいた街にあったような個人商店の面影を求め、自分で「うららかマルシェ」を始めました。このTシャツはマルシェのオリジナルグッズとして販売するつもりで意気揚々と作ったのですが、実際売ることになると「オリジナルグッズを売るなんて恥ずかしい…」と尻込みし、マルシェの小さなブースで自信なさ気に小声で販売したのです。でも今でもずっと気に入っているTシャツです。





店主・小森洋平さんに 聞きました

Q1. プロジェクトの話を知ったときに
どう思いましたか？

すごいイベントを、浦安で！！
って思いました。娘が、絵を描
いていて、「アート」という言
葉に、やりたいなど。プロジェ
クトのことは無知でした。

Q2. なぜ、このプロジェクトに
参加することを決めたのですか？

娘、美容室、絵が好き、形が好
き。藝大の方々と出会えたから。

Q3. 訪れた人の反応はどうでしたか？

いろいろな方々が来て、楽しか
ったです。手があいているとき、
お話したり、学生と話せたり、
みなさん、じっくりみてました。

Q4. 会期中、
印象に残ったことはありますか？

もう少し、宣伝をした方がいい
など。知ってる人が少なすぎま
した。

Q5. 参加しての感想を教えてください

ハッピーでしたよ。店の感じも
変化ありで、とてもよかった。
欲を言えば、もっとたくさん
の人に来てほしかったです。

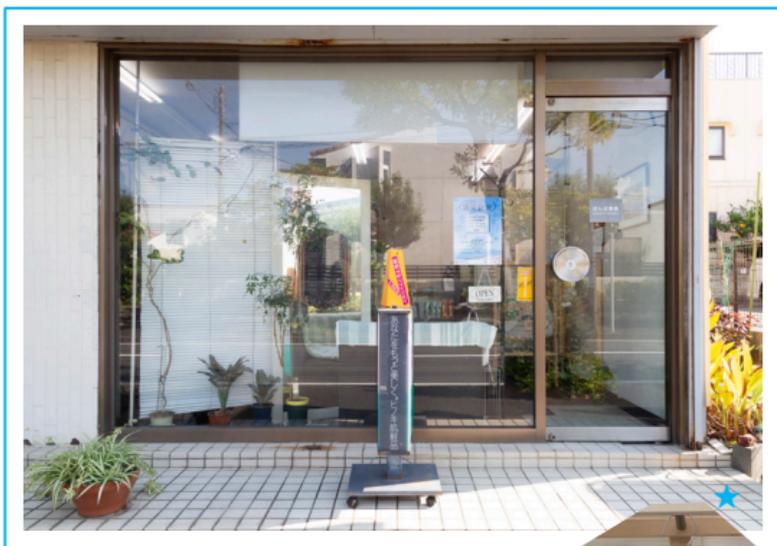


3 ばんば美容

住所：浦安市入船4-18-10

時間：11:00～17:00

休み：火曜日、金曜日



ジャケット

数十年前に使用されていた、日本とアメリカの間で小麦粉を運搬・保存するために作られた布製の袋を、日本では繭を保存する繭袋として再利用していたそうです。その後様々なところを経由して私の手元にたどりついた、長年働いた袋を、素材を生かすなら着るのが一番いい！と考

えて、袋をほどき、重なった汚れを落とし、清潔にし、すり切れた部分や穴をふさぎ、ジャケットに仕立て長年愛用しています。この素材は木綿で薄手なのに風を通しにくくて冬でもあたたかく、とてもすぐれていて、着心地も良いんです。



ぬいぐるみ

毎日オリオンズ時代から私設応援団で旗を振ったり笛を吹いたりしていた父が平成4(1992)年ロッテの千葉移転の年に死去。ひとり暮らしの母にヘルパーさんがマリスタジアムのお土産として持って来てくれました。「東京音頭」は、南千住にあった東京スタジアム時代に父の発案で始まり、昭和37(1962)年から10年間唄われました。





店主・白鳥明さんに
聞きました



- Q1. プロジェクトの話を聞いたときにどう思いましたか？
どのような催しなのか、興味がありました。
- Q2. なぜ、このプロジェクトに参加することを決めたのですか？
浦安市と東京藝術大学のプロジェクトということで何かしら協力できればと思いました。
- Q3. 訪れた人の反応はどうでしたか？
来店した方それぞれが、展示している物の古さに逆に新しさを感じているようでした。
- Q4. 会期中、印象に残ったことはありますか？
年齢に関係なく、年配の方も若い方（学生）も来たことです。
- Q5. 参加しての感想を教えてください
またこのような企画があれば、協力したいと思います。



4

UPPER CUT

住所：浦安市入船4-10-1 Y-2 1F

時間：平日10:00-20:00／土日祝 9:00-19:00

休み：火曜日、第3水曜日

陶器

浦安友達のひとみさんが、このプレートにドライフルーツ羊羹を乗せてインスタグラムにアップ。そのプレートがとても素敵で羨ましがっていたら、プレート情報より先に、お友達であり作者の高橋亜希子さんを紹介してくれて、亜希子さんは後に私が始めた「うららかマルシェ」の出店者さんにまでなってくれたのです。このプレートを手取る度に、スイーツで大胆で芸術的な、ひとみんとあっちゃんに思いを馳せています。ありがとうございます。



洋服

家族が出してくる不要になった衣類を見て、着たいけどサイズが……ここ傷んでるけど他はキレイだ……じゃあバラバラにして、使える部分だけで私のサイズに作り替えればいいや！で、生まれたのがこの「おばシャツ」と「おばサルエルパンツ」です。同時に私の体にだけ合わせた形で、この先体型が変わっても、おばあちゃんになっても作り替えなくていいように考えた型紙も1枚ずつ作り、その型紙だけで作った衣類を私は365日着用しています。というわけで私の衣類は家族のお古からできています。

バッグ

年数経っている。Uセンターに行くときに筆記用具やメモ用紙などの小物を入れるのに使っていた。1～2年使用。カラオケをしにいくときに便利で買った。コロナ前は毎日のようにUセンターでカラオケをやっていた。大きいバックを買ったので使わなくなった。



スケッチブック

夫が昼夜問わずあまりによく寝るので、新婚当時はとても悲しい気持ちになったものでした。ある日、相変わらず寝ている夫の寝姿を恨めしく眺めていたら、なぜかスケッチすることを思い立ち、スケジュール帳の裏に鉛筆で描くとプツッと笑える絵が描けました。処女作はとても下手ですが、回を重ねるごとにちょっとずつ上手くなっているのが見どころです。我が家ではこの絵を、親しみを込め「寝姿百景」と呼んでいます。



店主・榎間丈晴さんに
聞きました



Q1. プロジェクトの話を聞いたときにどう思いましたか？

これまで浦安市のイベントに参加したことがなかったので、何か面白いことになりそうだなと。

Q2. なぜ、このプロジェクトに参加することを決めたのですか？

理髪店・美容院は通常、馴染みの店にしか出入りしないものですが、それ以外の目的でふらっと違う店を覗くことができる良い機会になると思ったので。

Q3. 訪れた人の反応はどうでしたか？

初めて店の扉を開けるのは勇気がいるのでしょうか。キョロキョロしながら何度も行ったり来たり。目が合うと照れながら入店。展示品をゆっくり鑑賞後、店内の撮影もしていただき、また来ますと笑顔で帰られたり。

Q4. 会期中、印象に残ったことはありますか？

展示品の出品者の方がいらして下さって、ご自分のスケッチをにこやかに眺めている姿が微笑ましかったです。

Q5. 参加しての感想を教えてください

ヘアカットをしに来店するお客さんだけとの交流しかなかったため、それ以外の方とのつながりができて良かった。

5 SILVIA

住所：浦安市入船4-10-26 金子ビル102

時間：10:00-20:00

休み：不定休



シャツ

30年位前に、あるファッション誌で森田剛君が着用していたポール&ジョーのこのシャツがどうしても欲しくて。ただ今みたいにインターネットなんか無い時代だったので、雑誌から得る情報を頼りに探すも中々見つからず。そんな中、母があらゆる人脈を駆使して奇跡的に見つけてきてくれた物です。20年近く実家で眠っていましたが、コロナ前に断捨離をしている時にたまたま見つけて持って帰ってきて、今でも夏に着ています。



コップ

Uセンターで習い始めた時の、我が人生、初めての作品です。先生のご指導の元、中と外の釉葉の色を変えて作った、私としては自慢の作品で、特に外側の飴釉の色が、よく出ているとほめられます。



スーツ

折りたたみ傘

76才になりそろそろ片付けようとしています。葬儀に参列する時、一生使用できるということでこの日傘を買いました。15年目に初めて使おうとしたらもう布が古くなり本日の太陽が透けてしまいましたので。今考えると、葬儀は冬が多かったのかもしれない。

25年位前にアルマーニでオーダーメイドしたスーツ。社会人になったら良いスーツの1着位と思います。知り合いにお願いしました。ただ職業柄、普段は私服なので冠婚葬祭の時位しか出番は無く、すっかりクローゼットの肥やしになっていました。これを機に仕立て直しをして、25年前の若かりし頃の初心に戻ろうと思います。





店主・森 直也さんに 聞きました

Q1. プロジェクトの話を聞いたときにどう思いましたか？

プロジェクトの話はとても面白く、共感できる内容で参加させていただきたいと思ったのですが、スタッフが僕のみなので、接客する時に対応が難しいと感じました。

Q3. 訪れた人の反応はどうでしたか？

皆さん恐る恐るって感じで(笑)。でも、お話すると楽しそうにされて、手が空いているとついつい僕も話し込んでしまいました。

Q4. 会期中、印象に残ったことはありますか？

短期間でしたが、すごくたくさん印象に残った事がありました。一つ挙げると会期中に同じ方が2回いらしてくれて、2回目にご自身で栽培されている野菜の差し入れをいただいたことですね。

Q5. 参加しての感想を教えてください

とてもたくさんの方々と触れ合うことができよかったです。ただ、この企画を知らない方も多くて、もっとたくさんの方々を知ってもらい、「浦安するファッション」をブラッシュアップしたいと思いました。SILVIAをサポートしてくれたスタッフの皆さん、お越しいただいた皆さん、ありがとうございました。

Q2. なぜ、このプロジェクトに参加することを決めたのですか？

西尾さん、米津さん、事務局の方々の人柄です。あとは、このプロジェクトの企画を通して少しでも地域貢献できたらと思い参加を決めました。



様々な人の声

自宅ちかくの美容院は、高齢者にとって定期的な外出先となる空間だ。プライベートとパブリックの中間地帯であり、ケアや親密な会話に満ちた空間でもある。西尾さんから、浦安の理美容院が立ち並ぶエリアに目が行った、と聞いた時、ひらめきを感じた。アートプロジェクトによって、普段は目につかない街の人々のコミュニケーションのありかが可視化される。見えないものが見えるようになることで、なにかの「存在」が立ち現れ、より確かなものになる瞬間が訪れる。たとえば、人々の間の絆やつながり、といったような。

(「拡張するファッション演習」キュレーター 林央子)

名

前を聞いたことといえは漫画くらいで、行ったことといえは夢の国くらいという土地でのプロジェクト。移動可能な什器はここに行くまでによく見かけたスーツケースの形状をヒントにした。まちの方をはじめ、まだまだ面白いところが見つかりそうだったのだけど今回は時間切れ。理髪店・美容院が多いことの答えとともに次回に持ち越しだ。

(展示什器制作 L PACK)

このプロジェクトを通じてまちに触れることで、本来なら出会えなかった人のつながりや新たな発見に触れることができました。入船の一部の地域に理髪店や美容院が集中していること、初めて訪れた店舗でもすぐに受け入れて話を聞いてくれたこと、古着を集めているとその場で身につけているものを貸してくれる人がいたことなど。無意識に日常を過ごしていると出会えなかったものばかりで、それらは心を豊かにしてくれました。来年度は、市内のどこで何が始まり、どんなことに触れることができるのか、今から待ち遠しいです。

(浦安藝大プロジェクトコーディネーター 布下翔基)



会

期中含め何度も理髪店・美容院に足を運びましたが、訪れるたびに店長さんやスタッフの方との会話が増えていくのが印象的でした。CUT CLUB Top oneでは最初は奥で様子を伺っていた店長の奥様が毎回出迎えてくださるようになったり、accordioでは「もって何でも自由に使っているよ!」と言ってもらったり、ばんば美容では「珈琲淹れようか?」とお声がけいただいたり、UPPER CUTでは心からの労いの言葉をいただいたり、SILVIAでは店内の植物の話で盛り上がりたり。どの店舗も通常の業務が忙しいなか、来場者へプロジェクトの説明や、できる限り会話をしてくださったようで、アートプロジェクトに欠かせない「人」の存在をここ浦安でも感じました。

(「浦安するファッション」コーディネーター 米津いつか)

展

示のための思い出のエピソードを考えていたとき、がんばったこと、空回りしたことなどいろいろなことを思い出しました。展示アイテムを提供することで、それらのアイテムを通じて出会ったさまざまな方たちのことに思いを馳せ、ひんやりした陶器のお皿や、ただのスケッチブックにも胸が熱くなりました。私自身がまちなか展示を楽しませていただいた一人です。どうもありがとうございました。

(「浦安するファッション」展示アイテム提供者 小川江美)

拡

「拡張するファッション演習」は、衣服という当たり前の存在を可視化し、人と人とを結びつける役割を担います。理美容院を舞台に装いのアイテムを展示した「浦安するファッション」は、地域のネットワークの活性化を図ると同時に、時間と空間を超えて「誰か」の思いに触れることのできるひとつの「共同の場」をつくりだしました。ほかにも今年度は様々な養分を吸収したため、次年度につながるアイデアがすでに芽吹き始めています。

(「拡張するファッション演習」リサーチャー 安齋詩歩子)

浦

安市民としてアイテムをいくつか提供させていただき、会期中に参加されていた全店舗にお邪魔させていただきました。こんな機会でもなければ見ることのできない物を目にしたり、何うことのできない貴重なお話を聞かせていただきました。私自身が製作している家族のお古からできている衣類や「浦安日傘」を見ていただける機会にもなり、声をかけていただいたことに感謝しております。

(「浦安するファッション」展示アイテム提供者 Takami)

募

集チラシや会期中に配布されるマップ、また、このドキュメントのデザイン制作で関わらせていただいた。最初にプロジェクトの概要を伺った時、理髪店・美容院と住人、特に高齢者との間にどのように新たな関係性が生まれるのだろうか、と期待が高まった。わたしは残念ながら会期中に伺えなかったのだが、こうしてドキュメントを制作してみると、そこに人と人のつながりを感じることができた。私たちは日々「人と人のつながりの中で暮らしている」ということを再認識することができる企画だと思し、そこに重要性があると思う。次こそは訪れて、この眼で見て体感したい。

(デザイナー 千葉美穂)

髪

を切る以外の目的で美容院に足を踏み入れたのは、初めてだったかもしれない。私の祖父母も、月1回（もしかしたらそれ以上）の美容院通いを欠かすことはなかったことを思い出す。浦安に住む人の数以上に、交差した無限の人生があるという途方もない入口に立った気持ちだった。

(浦安藝大プロジェクトマネージャー ミヤタユキ)

街

中の展示を巡り、ファッションや装いを様々な角度から捉えることができました。「拡張するファッション演習」の他のプログラムにも参加し、装いと人との新たな関係性を学んだり、装いが人との対話を生み出すことを改めて実感したりしました。装いや装いにまつわるエピソードから人や場所、時や文化と交流できたのもとても楽しく興味深かったです。今後のさらなる展開も気になっております。私自身も今回の気づきをヒントに日々装いの可能性を探っていきたいと思います。

(「浦安するファッション」来場者 エルサ)

初年度を振り返って

「浦安するファッション」は「拡張するファッション演習」の一環として行われました。演習という名のアートプロジェクトに取り組んだ西尾美也・林央子・安齋詩歩子の3者が、「浦安するファッション」を含めた1年目となる「拡張するファッション演習」を振り返ります。
 (浦安藝大) 公式ウェブサイトより転載)

関係性を組み替えるアートプロジェクト

地 域の中で作り手と受け手の関係性を組み替えながら実施されるアートプロジェクトは、その成果物以上に、そこに関わる人々の学び合いのプロセスこそが重要である。こうした思いを実践者として募らせてきました。2023年から3年をかけて、浦安の「高齢化」と「孤立」等の課題に取り組む「拡張するファッション演習」では、この思いに基づいて演習と銘打ち、専門家とチームを作って企画制作を進め、レクチャーやワークショップ、まちなか展示を展開してきました。

「高齢化」と「孤立」は、今現在において高齢の方だけの問題ではありません。人間の生とともにある「装い」を、「対話としてのファッション」として学び直していくことで、人と人が交感しながら生涯にわたって生き生きと暮らす方法について考えたい。演習の一つである「浦

安するファッション」が舞台にした理髪店・美容院は、まさに広義の装いにまつわる場所であり、高齢の方も外出の機会となる場所です。そうした場所を、一般の方から募集したアイテムを展示する会場へと変換することで、人々の意識に変容が起こります。実際に行くつもりがなかった理髪店・美容院を巡るという行動の変化も起こります。

いつもと異なる気持ちでまちを歩くこと。これはファッションの醍醐味ではないでしょうか。展示物を通してそこで間接的に出会えるのは、浦安に暮らす個別具体の人々です。また、そこは、お客さんと店主が言語的／非言語的な対話を繰り返し居心地の良い空間で、われわれの突飛なお願いを受け入れる店主のホスピタリティによってこの企画が実現できていることを改めて実感します。まちの要素や関係性を組み替えることで見えてきた

西尾美也

(「拡張するファッション演習」ディレクター)

のが、人の記憶であり、人と人が対話をする日常の豊かさである、という点は重要だと思えます。

本演習に関わる専門家や多様なゲストが、浦安で、「高齢化」と「孤立」をキーワードにしたファッションに取り組んでいること自体が、ファッションの業界からすれば注目に値することです。それが表現と受容あるいは生産と消費という一方向の関係ではなく、参加、体験、対話、交感、学び合いのために集っているとなれば、そういうモードで人が集まってくる、生き生きしたまちになるのではないかと。1年目のプロジェクトを終えて、そんな可能性を感じています。

浦安市内外に適用される関係性を組み替えるという手法は、ファッションという身近な媒体を通して、「高齢化」と「孤立」の課題を多くの人にとっての自分ごとにしていくのです。

「遊び心」でファッションを拡張する

美 術のフィールドに身を置いて、アートプロジェクトを行う上で「ファッションを遊ぶ」という観点を持ちこんだ美術家、西尾美也さんのことは、活動初期から興味をもって眺めていました。2023年、私が浦安藝大の「拡張するファッション演習」のキュレーターを務めるにあたって、西尾さんがファッションに与えた「遊び」を継続・発展させている若手表現者としてBIOTOPEと、「f i a i」のデザイナー居相大輝さんを招きました。オレンジ、ピンク、イエローなど6つの配色からなる遊び心にみちたグラフィック表現を服に落とし込む BIOTOPE は認知症予防に有効性を見出されているアクティビティ・ブランケット (fidget blanket) の概念を借用し、身近なトートバックの

装飾に転用するワークショップを開催しました。ワークショップではカラフルなファスナーやスナップなどの拡大された装いのパーツが、楽しいアクセサリーに生まれ変わりました。また、限界集落に住む高齢男女を自分の理想とするモデル像ととらえ、彼らとの日常の交わりを創作のコラボレーションに昇華させる居相大輝さんは、浦安という都市的環境に暮らす高齢者を試着に誘い、自ら撮影するファッション写真のモデルを依頼しました。

ファッションの概念を拡張してきた西尾さんの実践を継承する彼らの活動には、通常ファッションの世界のルールを書き換え、思わぬところに自由を与える「遊び心」がありました。参加した方には企

林 央子

(「拡張するファッション演習」キュレーター)

画への強い好奇心がみられ、ありきたりの体験ではなくとても楽しめた、という反響をいただきました。

アートプロジェクトがファッションと出会うことによって見えてくるものは、「装いは、人の自発性を輝かせるもの」という観点です。普段から、「みなと同じ」装いであることを優先させていませんか？ 集団に仲間入りさせてもらうための服、という捉え方から、一人一人の自発性を輝かせるための服、という捉え直しができれば、社会は誰にとっても活気に満ち、いきいきとしたものになるのではないのでしょうか？

「拡張するファッション」の目覚め

ファッションとは「自己像」をつくるものであるとよく言われています。衣服には機能性や有用性が求められるのはもちろんですが、人々の人格形成の一端を担っていることも間違いありません。あるいはファッションという言葉はお洒落や流行と同義として扱われていて、人を価値づけたり消費を促進したりもします。このような文脈において、ファッション=衣服という物理的な境界は個人を形づくるものではありませんが、共有できる文化や文脈がない限り心理的な境界によって人と人を区切ってしまうのです。

しかし、アートプロジェクトとしてのファッションは心理的な境界を溶解させ、情動的で共感し合える関係性が生まれる空間に人々を留めるのではないかと、今年度の演習を終え考えました。これは、ファッションのアートプロジェクトが衣

服という日常的で身体に身近な媒体を使用することによって可能になるためだと思います。

デザインユニットのBIOTOPEはファッションに「遊び」を導入する提案を、東京ではない各地の「ローカル」なセレクトショップのオーナーたちは衣服を媒介にした人と人とのつながりの提示を、さらにファッションデザイナーの居相大輝は限界集落に住み自身が制作する衣服による「癒やし」の提供を、それぞれの視座から語ってくれました。「遊び」「ローカル」「癒やし」といった補助線によって、今年度は「拡張するファッション」というテーマを浦安市民のみなさんに紹介できたように思います。

本演習のキュレーター・林央子が提唱する「拡張するファッション」とは、「対話」によって成り立っているものです。哲学者のヴィレム・フルッサーは井戸端会議

安齋詩歩子

（「拡張するファッション演習」リサーチャー）

のような対話を重視していますが、本演習もそれぞれ一方向的なものではなく、実際に話題に出た衣服に触れることができたり、講師陣ともオープンに話すこともできる場づくりを目指しました。本演習のディレクター・西尾美也による「浦安するファッション」では、街の理美容院を巡る機会を提供し、お店の方とのコミュニケーションも楽しみました。このように、暮らしのなかには「拡張するファッション」の可能性がそこかしこに眠っていて、私たちの「対話」の声によって起こされることを待っているのかもしれない。本演習のような経験がさらに増幅されれば、世代や肩書きをも越えるファッションを中心とした共同の場づくりも可能になるのではないのでしょうか。

西尾美也 + L PACK. 「浦安するファッション」

ディレクション：西尾美也

展示什器制作：L PACK.

コーディネーション：米津いつか

協力：CUT CLUB Top one/accorto/ばんば美容/UPPER CUT/SILVIA

運営：浦安藝大事務局、浦安市生涯学習課

西尾美也 + L PACK. 「浦安するファッション」ドキュメント

監修：西尾美也

編集：米津いつか

デザイン：千葉美穂

写真：横山 渚(★)/米津いつか(★)

発行：浦安市、東京藝術大学

発行日：2024年3月25日



URAYASU
ART PROJECT
〈浦安藝大〉